

一般会計

質問 都市計画税の減額の理由は。

答弁 都市計画税の課税標準額は固定資産税の評価額を基本としています。平成二十七年年度は評価額を算定する基準年度であることから、見直した結果、土地については地価が下落したため評価額が下がりました。また、家屋については在来家屋の評価額が三年経過により下がったため、都市計画税も減額となりました。

質問 交差点へのカラー舗装工事の効果は。

答弁 十和田警察署にて過去五年間の検証をしたところ、整備前に比べて事故が激減していました。また県警からも他市町村での検証の結果、大変効果があると推奨されています。

質問 元気な十和田市づくり市民活動支援事業による補助団体の選定方法は、今年度と同様にプ

レゼンテーションを行うのか。

答弁 次年度も同様の形で進めます。

質問 市庁舎建てかえの基本的な考え方は。

答弁 新年度早々に基本計画、基本構想の方針を立てますが、現在の庁舎新館の建物をどういう形で活用するかが大きなポイントになると考えています。

質問 防犯灯・街路灯省エネルギー化調査業務の内容は。

答弁 灯具の位置・種類・消費電力、契約区分、電力契約番号、LEDへの交換の可否や事業効果の算出など、LED化推進を前提とした灯具の現状を把握するものです。

質問 青年就農給付金の昨年度の実績は。

答弁 個人十一名、夫婦四組の計十九名で、給付金額は二千四百万円でした。

質問 福島原発事故

の影響で野生キノコの出荷制限がかけられているが、今年度の検査状況は。

答弁 残念ながら国には解除の基準がありません。しかし、検査の結果は低い値であることから、県が主体となってできるだけ多くの検査データを国に提出することで早く解除するよう取り組んでいるところですが、今後も県を通じて国に制限の解除を要請してまいります。

質問 今後、焼山地区活性化事業をどのように進めていくのか。

答弁 今年度基本計画の策定を進め、市民への説明会を実施しました。一方で、地方創生や人口減少等が喫緊の課題となっており、耐震診断の結果から大型の公共事業が控えています。そのことから、全ての事業を計画どおりに進める状況にはないと考えていますが、例えば定住にかかわる部分から取りかかると、総合的に考えて取り組んでいきたいと考えています。

質問 地域おこし協力隊について、基本的には

休屋などの観光地に住みながら活動することになるのか。

答弁 協力隊としての活動以外の時間も地域の方々と常に交流できるような形をとりたいと思っていますので、できるだけ休屋、焼山地区に近いところに住居を用意したいと考えています。

質問 四月から休館となる新渡戸記念館の指定管理契約はどのようになるのか。

答弁 休館に伴い、入館料の徴収、施設の維持管理など、指定管理としての主な業務がほとんどなくなることから、年間を通じた契約は難しいと考えています。基本協定に基づいた年度途中での取り消しについて速やかに協議したいと考えています。

質問 展示されている資料はどうなるのか。

答弁 展示資料については、昭和三十九年に賃貸借契約によって新渡戸家からお借りしているものであることから、返却の時期、方法等について今後協議したいと考えています。

質問 耐震診断の結果により使えなくなった市民屋内グラウンド、南屋内グラウンドなどの建てかえがされるまでの間、とりあえず間に合わせ的な施設での対応はできるのか。

答弁 できれば二重投資は避け、きちんとしたものを作りたいと考えています。現状を考え、市民の意見も聞きながら、今後二年間の中で慎重に検討したいと思っています。

特別会計

(国民健康保険事業)

質問 出産育児一時金の積算内容は。

答弁 出産する人数が減っていることから、平成二十六年度は百十人でしたが平成二十七年年度は百人で計上しています。

質問 特定健康診査の増額の理由は。

答弁 今年度の受診率が約三％程度上昇する見込みであることから、二十七年年度も受診者増を見込みました。これは、個人負担金を無料にしたことと健康とわだポイント

ラリーを実施した影響と思っています。

(介護保険事業)

質問 高齢者あんしん見守り協力隊登録事業の内容は。

答弁 市内の町内会を含め、民間事業団体などが普段の業務の中で高齢者に関心を持ってもらい、声かけや見守り活動をしてもらうための登録事業です。

企業会計

(病院事業)

質問 病院職員の勤務体制をどのように認識しているか。

答弁 現在はチーム医療という形で展開していますが、確かに看護師等の実働の不足は実感しています。実際、産休、育児等により夜勤ができる看護師が不足していることから、三月から一病棟を閉じています。そういう意味では医療の質が少し下がったと実感していますが、限られた人員の中で上三地域の医療を維持していきたいと考えています。

予算審査特別委員会 質疑応答